

事 務 連 絡

令和4年3月15日

各都道府県・指定都市教育委員会食に関する指導担当課
各都道府県私立学校事務担当課
附属学校を置く各国公立大学法人学校事務主管課 御中
構造改革特別区域法第12条第1項の認定
を受けた各地方公共団体の学校設置会社担当課

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課

和食文化継承のための小学生向け教材“わたしたちと「和食」”の周知について（協力依頼）

標記について、農林水産省から別紙のとおり、周知依頼がありました。

については、都道府県教育委員会におかれては、所管の学校及び域内の市町村教育委員会に対し、指定都市教育委員会におかれては、所管の学校に対し、都道府県私立学校主管課におかれては、所轄の学校法人に対し、附属学校を置く国公立大学法人学校事務主管課におかれては、附属学校に対し、構造改革特別区域法第12条第1項の認定を受けた地方公共団体の学校設置会社担当課におかれては、所轄の学校設置会社に対して周知いただきますようお願いいたします。

【本件連絡先】

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課食育推進係

TEL : 03-(6734)-2095 E-mail : shoku@mext.go.jp

事務連絡
令和4年3月15日

文部科学省初等中等教育局
健康教育・食育課 御中

農林水産省大臣官房新事業・食品産業部外食・食文化課

和食文化継承のための小学生向け教材“わたしたちと「和食」”の周知のお願い

農林水産省は、ユネスコスクール事務局である公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター等と連携し、初めて小学生を対象とした教材“わたしたちと「和食」”を制作し、その教材を用いたモデル授業をユネスコスクール加盟校で実施しました。

このたび、これらの取組についてのプレスリリースを行いましたので、年度末の折、大変お忙しい所、恐縮ですが、学校教育関係各所へのご周知の方、よろしく願いいたします。

本教材につきましては、先生方において自由にご活用いただけるものとなっております。

モデル授業に参加した児童の約8割が和食とSDGsの繋がりを知らなかったと回答するも、授業を機に児童の約9割が和食をもっと食べたいと回答するなど、児童が和食に興味を持つきっかけになった本教材を多くの教育現場で活用していただけることを切に願っております。

別添：【農林水産省：プレスリリース】

初！和食文化継承のための小学生向け教材“わたしたちと「和食」”が完成
(内容)

1. 教材“わたしたちと「和食」”の紹介
2. モデル授業の紹介
3. モデル授業を受けた児童や保護者へのアンケート結果

(問合せ先)

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部
外食・食文化課 食文化室
担当：牧野、亀田 連絡先：03-3502-5516

報道関係各位

初！和食文化継承のための小学生向け教材 “わたしたちと「和食」”が完成

～ 和食とSDGsの繋がりを知った児童も、和食に興味津々～

農林水産省は、文部科学省とユネスコスクール事務局である公益財団法人ユネスコ・アジア文化センターと連携し、初めて小学生を対象とした教材“わたしたちと「和食」”を制作し、その教材を用いたモデル授業をユネスコスクール加盟校で実施しました。モデル授業に参加した児童の約8割が和食とSDGsの繋がりを知らなかったと回答するも、授業を機に児童の約9割が和食をもっと食べたいと回答するなど、児童が和食に興味を持つきっかけとなった本教材を多くの教育現場で活用してください。



1. 教材“わたしたちと「和食」”の紹介

農林水産省では、各都道府県に和食文化を伝える中核的な人材「和食文化継承リーダー」を育成するための研修会等を令和元年度から開催しています。このたび、「和食文化継承リーダー」や教育現場で活躍している方向けに、和食の全体像

を分かりやすく教育現場で伝えていただくための継承ツールとして、小学生を対象とした教材“わたしたちと「和食」”を制作しました。

この教材は、文部科学省の学習指導要領、学校現場の教育カリキュラムに沿う形で発達段階に応じた内容の構成となっており、動画（2本：中学年、高学年）と教材（6種類：低学年（児童用/指導者用）、中学年（児童用/指導者用）、高学年（児童用/指導者用））に分かれています。教材（指導者用）には、授業への取り入れ方や指導計画と授業展開例なども掲載しておりますので、是非ご活用ください。

（教材（児童用）の注目ポイント）

- ・導入部分で「自分ごと化」しやすい身近な問いかけを入れ、関心が高まり、知識が深まるような工夫。
- ・随所に和食とSDGsを絡めた内容やコラムなどを入れ、SDGsとの関連などを自ら考えるような工夫。
- ・調べ学習だけでなく、自分のこれからの生活に活かしていくことを目的に、中学年と高学年では、最後のページにワークシートを設けるなど工夫。

※詳細はこちらから

<https://ouchidewashoku.maff.go.jp/model>（「おうちで和食」Webサイト）



2. モデル授業の紹介

“わたしたちと「和食」”を用い、横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校（ユネスコスクール加盟校）でモデル授業を実施しました。

※モデル授業などの記事はこちらから

https://ouchidewashoku.maff.go.jp/img/report_modelkamakura.pdf



※ユネスコスクールの詳細はこちらから

<https://www.unesco-school.mext.go.jp/>



3. モデル授業を受けた児童や保護者へのアンケート結果

モデル授業後、児童と保護者にアンケートを実施しました。和食への関心が高まった結果、和食へのイメージの向上に加え、約9割の児童が和食をもっと食べたいと回答しました。また、約8割の児童が和食とSDGsの繋がりを知らなかったと回答する中、モデル授業に参加して、もっとSDGsとの繋がりを知りたい、和食を通じてどんなことができるかを考えてみたいと多くの児童が回答し、モデル授業後に家族に話をしたり、料理を作ったりした児童が約9割もいました。

※児童・保護者へのアンケート結果はこちらから

(児童) https://ouchidewashoku.maff.go.jp/img/question_student.pdf



(保護者) https://ouchidewashoku.maff.go.jp/img/question_parents.pdf





お問合せ先

大臣官房新事業・食品産業部外食・食文化課 食文化室

担当者：牧野、亀田

代表：03-3502-8111（内線：3085）

ダイヤルイン：03-3502-5516